

「子よ、あなたの罪は赦された」

2021年10月27日

イエスは彼らの信仰を見て、その病人に、「子よ、あなたの罪は赦された」と言われた。ところが、そこに律法学者が数人座っていて、心の中で考えた。「この人は、なぜあんなことを言うのか。神を冒瀆している。罪を赦すことができるのは、神おひとりだ。」(マルコ福音書2章5節～7節)

規定の病を患っている人を清められた数日後、主イエスは再びカファルナウムに来られた。家におられることが知れ渡ると、大勢の人々が集まって、戸口の辺りまで全く隙間のないほどになった。主イエスは御言葉を語っておられた。そこへ、四人の男が体の麻痺した人を担いで来た。彼は自分では立てない寝たきりの病人である。友人たちは、主イエスが病を癒されると聞いて、彼を癒していただくとして、担いで運んで来たのである。ところが、主イエスの回りを人々が取り囲み、近づくことができない。彼らは屋根に上り、主イエスのおられる辺りの屋根を剥がして穴を開け、床をつり下ろした。こんなことができるのであろうか。当時の家は、屋上にテントを張って仮庵の祭をするため、屋上に上がる階段が付いていた。それを使って屋上に上り、屋根に穴を開け、つり下ろしたのである。可能とは言え、他人の家を壊す行動は常軌を逸している。友人たちは何としても癒していただきたいと、このような行動をしたのである。彼は健康な時、友人を大事にする人であったに違いない。だから、友人たちから、このような親切を受けることができた。ゴミや塵と共に、床に寝たままの人がつり下ろされ、騒然となったであろう。

主イエスは、彼と友人たちの信仰を見て、「子よ、あなたの罪は赦された」と言われた。そこに、数人の律法学者が座っていた。彼らは、民衆に絶大な人気と支持を受けている主イエスを監視し、落ち度を見出しあげつらい、宣教活動を止めさせようとして、この場にいたのである。彼らは、主イエスの「子よ、あなたの罪は赦された」という言葉を聞き、心の中で「この人は、なぜあんなことを言うのか。神を冒瀆している。罪を赦すことができるのは、神おひとりだ」と思った。聖書の信仰では、罪の赦しを与えられるのは神のみである。主イエスは、彼らが考えていることを霊で見抜き、「なぜ、そんなことを考え心に抱くのか。この人に『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて、床を担いで歩け』と言うのと、どちらが易しいか。人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう」と言われ、体の麻痺した人に、「あなたに言う。起きて床を担ぎ、家に帰りなさい」と宣言された。すると、彼は起きて、すぐに床を担いで、皆が見ている前を出て行った。人々は皆驚嘆し、「このようなことは、今まで見たことがない」と言い、神を崇めた。

マルコ福音書の記者は、主イエスは神にしか言えない「罪の赦し」を宣言する権威を持っておられ、その権威が体の麻痺した人を立ち上がらせたと伝えている。罪の赦しとは生の是認であり、神と結び合った救いの事実である。この救いの事実は自分の足で立って歩くようにさせる。人は自分と社会を否定し、生きることは空しいと、床に伏し、ふさぎ込んでしまう。このニヒリズムには甘美な香りが漂う。しかしそれは、人に床に乗せられて運ばれているような人生である。人生を放棄し、ふて腐れて寝たきりになった人に、主イエスは、「子よ、あなたの罪は赦された」と言われる。この言葉を聞き、信じた者は床から起き上がり、自分の足で立ち、責任的に生きる者に変えられる。体の麻痺した人を、主イエスの傍につり下ろした四人の男たちの非常識に倣いたいものである。